

心から心をつないで



寒風の中、托鉢に向かう僧侶

地球救援募金強化月間

全国一斉托鉢始まる

今年十二月は、全国一斉托鉢の月です。天台宗では「地球に慈愛の灯を！」をスローガンに、毎年全国各地で「天台宗全国一斉托鉢」を展開しています。十二月一日には天台宗と総本山延暦寺をはじめ、各天台宗教区・寺院で托鉢を行います。皆さまの浄財をお待ちしています。

托鉢とは、本来僧侶が自分の鉢を持って一般在家の宅を廻り、信心の布施を頂戴し、自らの糧とする修行です。

お釈迦様が托鉢をしていたとき、農夫から「人に恵んでもらわずに、自分で耕して食べる」と言われ、お釈迦様は、「信仰が種であり、修行は雨、智慧が人々の心を耕し、全ての苦悩からの解放を成らせます。私は、托鉢をすることで、信仰の種をまき耕しているのです」と答えたといわれています。

このことは、托鉢が、執着を越え、衣食住に「少欲知足」を旨とし、人々が僧侶に金銭や食物を施す善根（布施・財施）を積ませる尊い行為であることを教えています。また托鉢は、僧侶が在家者に法を説く布施（法施）と一体になっています。



今なお地震の爪痕が至る所に残る（新潟県・小千谷市で）

浄財は災害復興支援にも

天台宗では、皆さまが喜捨された浄財を、社会福祉施設やNHK歳末助け合いなどに寄託しております。また本年は、天災により、被災された方々への救援募金も併せて行います。長期にわたって実施することのできるよう今年十二月中を「地球救援募金強化月間」と定めています。ご協力をお願いいたします。



冬到来に備え本格的復興が待たれる（兵庫県・日高町）

The Tendai Journal
天台 ジャーナル

広報天台

2004 年（平成 16 年）
12 月 1 日水曜日（毎月 1 日発行）

1 部 50 円（消費税込・送料別）
発行所／天台宗出版室
発行人／出版室長 工藤 秀和
〒520-0113 大津市坂本4-6-2
天台宗務庁内
電話 077-579-0022（代）
Eメール／T-Press@tendai.or.jp

一隅を照らす運動推進会報
（一隅推進会員）
年費（2500円）中に会報
（天台ジャーナル）購読料を含む。

極微 ごくみ

最近の若い人たちの服装を見るとおしゃれの感覚がまるで違うことを痛感する。シャツをスポンの外に出すのは、だしなかつたのに、今は格好いいのだという。三島由紀夫は決してアロハシャツという言葉を使わず、たらしワイシャツと呼んでいたよ」と言うと「その人誰？」と聞かれた。そんなことを言っても、かつては我々も、大人から今の若者と同じように言われていたのである。流行り廃れは世の常だ。しかし、大人になれば、どんな流行にも左右されない世界があるものに気づかされるのである。

法の灯

謂うは易し、行い難し
天台宗布教師会副会長 倉永圓 宰

比叡山無動寺谷では、千有余年継承されている回峯行が、僧侶の捨身の荒行として、今なお、実践されている。私寺の門前に、鯉料理店を営んでいる八十三歳の主人がいる。半世紀にわたる、「三回峯」といえば大袈裟だが、暁天を待ちかねたように、春夏秋冬、雨の日も風の日も、心経を唱え、参道の空きカン、ゴミを拾いつつ、今日も寺に参拝すること二万八千余日を数える。石段を登り、観音堂境内を一周し、主人の一日が始まる。昭和十八年、二十一歳で兵役に召集され、ビルマ、台北と南方前線激戦地を点々とする中、実兄二人も戦場で桜衣と散り、戦友も散る中、九死に一生を得て終戦を迎えた人である。翌年の八月、佐世保に下船、故郷に復員したが、戦後の混乱、亡き戦友を思う悲哀、生活困窮の日々の中で、心の灯を失いつつあった。しかし、幼き年より、両親の信仰心の厚い背中をみて、英霊の御魂に回向を捧げ続けようとしたといふ。宗祖大師の発願文に「生ける時善を作さずんば死する日 獄の新とならん」とあるが主人は、「善行」「信仰」「健康」を心の糧として、今なお健在である。私自身も、日々の生活の中で善行を積み重ね、感謝の心を持ち続けたいと念じながらも「謂うは易し、行い難し」である。それでも、肩を張らずに、コツコツと歩歩のよう



対談 医療と宗教の最前線から

「人がよりよく生きるためには」

仏教では「生老病死」という。生れて、老いて、病んで、死を迎えるという自然の摂理のことである。病と死に直面する医療、葬儀を司る宗教と思われがちだが、その両者とも「人がよりよく生きる」ことを最大の目標とする。よりよい生、よりよい死のために、宗教と医療の最前線はどう考えているのか。野中博日本医師会常任理事と浦井正明寛永寺執事長に語り合ってもらった。



医師は患者の心と触れあう部分を取り戻すべき



人と触れあうこと

浦井 野中先生も、私も医療と宗教から、人の生と死に拘わっています。世間からは、医療の側は病気を治し、宗教の側は死後のことが中心のように思われていますが、実は死後のことは二義的なことで、どう生きるかというのが仏教本来の教えです。地域医療に従事しておられる野中先生も、病気を治すだけのお仕事ではなく、どう生き、どう老い、どう死ぬかに拘わっておられます。まず医師の立場からお話頂きたいと思います。

野中 かつて、大病院にいた頃、透視医療の現場におりました。その頃は、治療しても、助かるか助からないか解らないような時代でした。その時代から考えると随分医療技術も進歩しましたが、治療と共に社会復帰させていくことが、患者さんにとって大切なことだと思っています。

浦井 野中先生こそ、お忙しいのに、往診治療をなさっています。最近では地方でも往診が少なくなっているように思います。この大都会で往診をされているということは、非常に珍しいことではないのですか。

野中 私の父も医者でして、電話が来れば夜でも往診に出かけていました。子ども心に「カッコいいなあ」と思っていて、それが私が医師を志した動機のひとつなんです。今から考えると、当時の技術を駆使するために、病院に入院する。しかし一方、家族の人間関係が分断されているとも思えます。それに、今の医療側はスケールメリット、いわゆる数をこなさなくては成り立ちません。死や老いという個人的な問題にきちんと対峙しな



人と触れあうこと

浦井 最近、本人にとっても家族にとっても、死というものが日常生活から隠されるようになってきています。死は、自宅ではなく、病院で迎えるものになっていきます。自宅で家族に見守られながら死を迎え、家族がそれを看取ることによって、命に対する感謝や悲しみが生まれます。病院は非日常の空間です。そこで管や機械が繋がれた（スバゲッティ状態）で迎える死は、普通の死ではないために、感動や悲しみが薄らぐようになっています。

野中 昭和二十年代には、自宅で亡くなる方が八割近くで、病院での死というのは僅かでした。それが、逆転してきて、今は、殆どの方が病院で亡くなります。その多くの原因には「病院に入れておけば安心だから」という意識があるように思えてなりません。さらには、科学が進歩し、最先端の技術

浦井 医師と患者との間に人間関係がない医療が問題だと。我々からすれば、葬儀でも同じ事がいえます。檀家さんが亡くなられて初めてお宅を訪れ、家族構成も何も知らないというのはどこかおかしい。患者に「この医師ならば、全てお任せしてもいい」という安心感を持ってもらわなくてはならないし、「この住職に葬儀をしてほしい」と思われなければなりませんね。

野中 科学の進歩に伴って、医療も人に優しくなっていくはずなのに、そうはなっていない。経済発展ばかりに目が向けられ、世の中は儲け優先です。おかしな競争社会といってもいい。私は競争ではなく切磋琢磨することが大切だ

地域社会の力

野中 現状の医師には多くの問題もあります。本当は自宅で生活したいけれど、治療のためには病院を退院できない人もいます。そうした患者のニーズにどう答えるかを考えながら、訪問診療、在宅医療を視野に入らなくてはなりません。ところが、在宅ではどんな治療でも出来るわけはありません。この点で、誤解されている部分があります。医療は二十四時間、三百六十五日体制を組まなければなりません。これが医師にとって、特に診療所医師には大変苛酷なことになります。そのため、あらゆる面でサポートできるシステムを作らなければと奮闘しています。

浦井 競争原理でいくと、効率だけになります。一日に何人患者さんを診られるか、ということになれば、もうそこには人間関係なんてありませんよね。人間関係がない医療、人間関係がない宗教なんて、異常ですよ。

野中 家族の側の人間関係もある。子どもを育てることは、誰も迷惑だとは思わないのに、年長になって介護が必要になると、老人を迷惑だと思える。どうして、そう思うのか、その原因が何かを考えなくてははいけません。それが、誰にとってもやさしい医療の基礎になります。私は医師になってから、ずっとその事を考えてきました。

浦井 地域社会の問題も大きいと思います。昔は家庭では足りない面を地域社会が補っていましたよね。今は核家族ですから、

野中 患者も医療提供者もどんな状況にあっても、住み慣れた地域に住み続けることが、人間としての尊厳に繋がると思います。残された時間をいかに有意義に過ごせるか、多くの問題を抱えているが、皆で努力すれば越えられる壁だと思います。（次号に続く）

浦井 正明 (うらいしろうみょう)
1937年生まれ。1961年慶應義塾大学文学部史学科卒業。東叡山寛永寺執事長。現龍院住職。

野中 博 (のなかひろし)
1947年生まれ。1972年、東京医科大学卒業。同年東京医科大学内科教室入局。1985年、野中医院開業。現在、浅草医師会会長、東京都医師会常任理事。

この住職に葬儀をしてほしいと思われなくては

ニューヨーク別院本堂建設始まる

日本堂解体から建設予定地の整備へ

ニューヨーク別院(間真・ポール・ネエモン住職)の新本堂建設作業がいよいよ本格的に始まった。

八月から旧本堂の解体に入りましたが、作業には同別院に集う信者組織であるサンガメンバーのボランティアも多数、協力している。旧本堂はシェ



「カー教徒が建てた馬小屋を改築したもので、百五十年以上上たっている。馬小屋とはいえ、ハリケーンの激しい風雨に耐え続けた建物で、柱なども立派な木材を使用し、斧で一本一本削って作ってあるため、新本堂の柱として再利用されることになっている。新

本堂の建設予定地は十一月末に、掘った地盤をコンクリートで固め、電気系統の配線などが終わった(写真)。これから柱の立ち上げ作業に移るが、クレーンなど重機が必要で、専門家を呼んで本格的工事となる。

別院はニューヨークの郊外イースト・チャダムにあり、朝はマイナス四℃で、一面霜に覆われるが、新本堂建設に向けてのサンガメンバーの意気込みは眼を見はるものが

あり、ネエモン住職も「まさに一人一人の力を出し合っていることが実感できます」と語っている。

去る九月二十二日には、お授戒があり、新たに五名の若者がサンガメンバーに加わった。ハードの面だけでなくソフトの面でも開教拠点を支える体制が作られてきている。

また、九月末には山田俊和海外伝道事業団副理事長(東京・最勝寺住職)より、新本堂用にと太鼓が寄贈された。

この太鼓は、山田俊尚最勝寺副住職と親交のあるネイティブ・インディアンとのデニス・バンクスの氏作。和太鼓風の外観に、随所にネイティブ・インディアン風の意匠が施されている。

現地では、あと数週間までとなるが、明年六月の落慶に向けて工事が続けられる。

同別院では、一カ月三千元のサポーターを募集している。サポーターには月一度、レポートが送付される。

郵便振替
口座番号
〇一七二一五七六七二八
加入者名 寺田豪淳
【ニューヨーク】寺田豪淳師

被差別戒名の追善法要を厳修

同和問題講習会も同時に開催

栃木教区

十一月六日、栃木教区宗務所(佐野市・惣宗寺)において、「被差別戒名物故者追善法要」が、部解放同盟栃木県連合会役員はじめ、同宗連加盟教団代表者等七十名が参加し執り行われた。

法要は、旭岡聖順宗務所長を導師に、教区役職、佐野部寺院住職が出仕し、厳修され、過去において差別戒名を付与した事実を反省し、同和問題の解決に向けて、今後も積極的に取り組むことを確認



した。

午後には、同和問題講演会が開催され、松岡徹部解放

同盟中央本部書記長を講師に迎え「人権の二十一世紀実現に向けて」これからの部解放運動」と題した講演が行なわれ(写真)、教区内寺院住職が多数参加した。

【栃木】本橋亮成通信員

開宗大法会にあわせて落慶

～滋賀・慈音院 本堂改築完成～



去る、十月十一日、滋賀県甲南町の慈音院(木村孝英住職)で、開宗二百年を慶讃して本堂改築落慶法要が、部内寺院任職総出仕のもと厳修された。

旧本堂は、築三百余年と老朽化が著しかったため、住職

の熱意と信徒の信心により、本堂の改築を発願。慶讃大法会の吉祥時に落慶の運びとなった。

当日は、接近する台風の進路によつては、直撃の可能性もあったが、幸い晴天に恵まれ、多くの来賓や参拝者が訪

の熱意と信徒の信心により、本堂の改築を発願。慶讃大法会の吉祥時に落慶の運びとなった。

当日は、接近する台風の進路によつては、直撃の可能性もあったが、幸い晴天に恵まれ、多くの来賓や参拝者が訪

の熱意と信徒の信心により、本堂の改築を発願。慶讃大法会の吉祥時に落慶の運びとなった。

当日は、接近する台風の進路によつては、直撃の可能性もあったが、幸い晴天に恵まれ、多くの来賓や参拝者が訪

の熱意と信徒の信心により、本堂の改築を発願。慶讃大法会の吉祥時に落慶の運びとなった。

当日は、接近する台風の進路によつては、直撃の可能性もあったが、幸い晴天に恵まれ、多くの来賓や参拝者が訪

天台トピックス

れる中、稚児行列など盛大に行なわれた。また、山門・鐘楼も新しく整備され寺観が一新された。

【滋賀】三浦密照通信員

【埼玉・明圓寺】永橋良文師
【福島・幸福寺】中野裕俊師
【福島・常願寺】中野瑞弘師
(平成16年10月28日、平成16年11月25日 法人部調)

【埼玉・明圓寺】永橋良文師
【福島・幸福寺】中野裕俊師
【福島・常願寺】中野瑞弘師
(平成16年10月28日、平成16年11月25日 法人部調)

中央布教研修会開催

十一月四・五日、平成十六年度中央布教研修会が天台宗務庁等で開催され、八十名が参加した。「現代に生かす信仰啓発」の研修テーマのもと、基調講演や全体会議での対談、布薩会についての講義、また二日目は教学大会布教部門の発表が行なわれた。

【教学大会開催】
十一月五・六日、叡山学院(大津市坂本)において、第四十六回天台宗教学大会が開催され、宗義の深奥を研鑽

し、教学及び布教の信仰を因り宗運の発展に尽力されたいとの天台座主親下のお言葉のもと、五十三名が日頃の研究成果を発表した。

【宗務所長会議開催】
十一月十一・十二日、宗務所長会定例総会と第六十七回宗務所長会議が天台宗務庁で開催された。所長会から、寺院の活性化、宗務庁と教区間の事務の簡素化、各教区が直面している諸問題についての要望がなされ、宗団と細部にわたり意見交換がなされた。

檀信徒研修会開催

十一月十九・二十日、総本山延暦寺を会場に、天台宗檀信徒祖山参拝研修会が開催され、全国から約百名の檀信徒が参加した。坐禅止観や作務、写経に勤しみ、大法会特別授戒についての法話を熱心に聞いていた。

大統領選挙と米国の正義



天宗機顧問
榎谷 義純

座をものにした。選挙前の日本では、ブッシュ氏が勝てばイラク情勢も含めてお先真っ暗で、ケリー氏が勝利すれば、仏なども協調し、イラクははじめ世界の見通しは明るい、などという評判がもつばらであった。すなわち、「イラク戦争一色の大統領選挙」を日本のマスコミは演出していたのである。

ところが選挙が終わってみると、今回の選挙に関し

ての米国人の関心事は、イラク戦争が十九%に対し、倫理道徳問題が二十二%であり一位であったことが判明したのである。その結果ブッシュ氏が再選されたといつてよい。特に今度の選挙では、同性婚の認知、妊娠中絶の合法性などが争点となり、いずれも否定的立場をとる人々がブッシュ氏へ投票した。いわゆる宗教右派といわれる人々である。これらの人々の動きが大統領選挙を左右したのだという。米国のいうとハリウッドやラスベガス、ウォール街やシリコンバレーなどを想像しがちであるが、我々の知らない米国の沢山ある。選挙速報をテレビで見たが、ブッシュ氏が選挙

人を獲得した州は、ほとんどが内陸部で、ケリー氏が獲得した州は、西海岸など海に面している州であった。そして日本企業の所在地や日本人が住んでいるのは、だいたいケリー陣営の多い地域であることもわかった。だからどうしても情報が片寄ってしまうのだ。世界の情勢は大きく変わりつつある。東西冷戦時代は、それぞれの陣営が仲間と強固な連帯を保ち、相手の陣営の拡大抑止に最大の注意が払われた。だからその時代の米国は同盟関係を重視していたのだ。しかし二極体制が終焉を告げた今、米国にとっての安全の障害は、国際テロと核拡散に移った。これらの問題の

あるところには強い外交、時には武力をもって臨むという、米国の主義が台頭する恐れがあるし、もうすでにその徴候は見えている。こういう流れに対し、倫理的に厳しい宗教右派といわれる人々が、どういう態度をとるか注目すべきところである。アルコール依存症だったブッシュ氏は、四十歳の時信仰に目覚め、朝五時に起きて聖書を読み、倫理的な生活を送っているという。この倫理性は「弱者ゆえにいたいたい」という謙虚な視点が欠けると、人に倫理性を要求する強者の論理となる。強者が主張する正義は、本来宗教と対極にあるはずのものだ。

「弱者ゆえにいたいたい」という謙虚な視点が欠けると、人に倫理性を要求する強者の論理となる。強者が主張する正義は、本来宗教と対極にあるはずのものだ。

「弱者ゆえにいたいたい」という謙虚な視点が欠けると、人に倫理性を要求する強者の論理となる。強者が主張する正義は、本来宗教と対極にあるはずのものだ。

「弱者ゆえにいたいたい」という謙虚な視点が欠けると、人に倫理性を要求する強者の論理となる。強者が主張する正義は、本来宗教と対極にあるはずのものだ。

ブッシュ再選かそれともケリーか？米国のみならず世界のこれからの決定するに、日本のマスコミが大騒ぎした米国の大統領選挙は、ブッシュ氏が再び大統領の座をものにした。選挙前の日本では、ブッシュ氏が勝てばイラク情勢も含めてお先真っ暗で、ケリー氏が勝利すれば、仏なども協調し、イラクははじめ世界の見通しは明るい、などという評判がもつばらであった。すなわち、「イラク戦争一色の大統領選挙」を日本のマスコミは演出していたのである。

ところが選挙が終わってみると、今回の選挙に関し

ての米国人の関心事は、イラク戦争が十九%に対し、倫理道徳問題が二十二%であり一位であったことが判明したのである。その結果ブッシュ氏が再選されたといつてよい。特に今度の選挙では、同性婚の認知、妊娠中絶の合法性などが争点となり、いずれも否定的立場をとる人々がブッシュ氏へ投票した。いわゆる宗教右派といわれる人々である。これらの人々の動きが大統領選挙を左右したのだという。米国のいうとハリウッドやラスベガス、ウォール街やシリコンバレーなどを想像しがちであるが、我々の知らない米国の沢山ある。選挙速報をテレビで見たが、ブッシュ氏が選挙

人を獲得した州は、ほとんどが内陸部で、ケリー氏が獲得した州は、西海岸など海に面している州であった。そして日本企業の所在地や日本人が住んでいるのは、だいたいケリー陣営の多い地域であることもわかった。だからどうしても情報が片寄ってしまうのだ。世界の情勢は大きく変わりつつある。東西冷戦時代は、それぞれの陣営が仲間と強固な連帯を保ち、相手の陣営の拡大抑止に最大の注意が払われた。だからその時代の米国は同盟関係を重視していたのだ。しかし二極体制が終焉を告げた今、米国にとっての安全の障害は、国際テロと核拡散に移った。これらの問題の

あるところには強い外交、時には武力をもって臨むという、米国の主義が台頭する恐れがあるし、もうすでにその徴候は見えている。こういう流れに対し、倫理的に厳しい宗教右派といわれる人々が、どういう態度をとるか注目すべきところである。アルコール依存症だったブッシュ氏は、四十歳の時信仰に目覚め、朝五時に起きて聖書を読み、倫理的な生活を送っているという。この倫理性は「弱者ゆえにいたいたい」という謙虚な視点が欠けると、人に倫理性を要求する強者の論理となる。強者が主張する正義は、本来宗教と対極にあるはずのものだ。

「弱者ゆえにいたいたい」という謙虚な視点が欠けると、人に倫理性を要求する強者の論理となる。強者が主張する正義は、本来宗教と対極にあるはずのものだ。

「弱者ゆえにいたいたい」という謙虚な視点が欠けると、人に倫理性を要求する強者の論理となる。強者が主張する正義は、本来宗教と対極にあるはずのものだ。

「弱者ゆえにいたいたい」という謙虚な視点が欠けると、人に倫理性を要求する強者の論理となる。強者が主張する正義は、本来宗教と対極にあるはずのものだ。

役行者ゆかりの霊蹟札所 神峯山寺で出開帳法要

大阪府高槻市の神峯山寺(近藤眞道住職)において、十一月十九日から二十三日まで、役行者霊蹟札所出開帳法要が執り行われた。平成十三年の役行者千三百年遠忌に、修験道縁の三つの本山(醍醐寺・聖護院・金峰山寺)が集い合同法要を修し



たのを機に、千年以上の歴史を持つ役行者縁の近畿三十六寺社が定められており、今回の法要は、三十六寺社のご本尊ご神体が一堂に会する出開帳法要として、役行者開山による神峯山寺で厳修されたものである(写真)。法要期間中は、採灯大護摩

供や毘沙門天特別法要、また世界遺産登録記念の「役行者と紀伊山地の霊場・参詣道」歴史と文化」と題した文化フォーラムが開催され、多数の参拝者が訪れた。

癒しの空間を目指す 座主現下ご親修のもと晋山式 東海院 海院 東妙

東海教区の妙乗院では去る十月十六日、渡邊恵進天台座主現下ご親修のもと、第二十五世酒井圓弘住職の晋山式を執り行った(写真)。同日は好天に恵まれ、稚児行列には五百名を超える子どもたちが参加、引き続き行われた晋山奉告式など式典の行われている間もお参りの人たちが引きも切らなかつた。また、午後には渡邊座主現下の大導師のもと、檀家先祖回向法要も営まれ、参列した

際し、本堂正面階段のスクロップ化、中庭の整備、梵鐘の造立などを行っており、「檀信徒の癒しの空間としての寺創り」を目指す酒井住職の新たなスタートとなった。翌十七日には、森川宏映毘沙門堂門主を伝戒和上として特別授戒会が奉修され、二百五十六名の檀信徒が参加した。【東海北川裕師】

寺院護持運営の参考に 檀信徒会研修会・総会を開催 一栃木教区・日光部一



去る十月八日、栃木教区日光部檀信徒会では、五十名が参加して、研修会並びに総会を開催した。この研修会は、日光部が数年に一度主催するもので、教区内で最近新築された寺院を

参拝見学し、今後の寺院護持運営について、檀信徒に参考にしてもらうことを目的としている。今回の研修会では、宇都宮部の普門寺・浄光寺・感応寺を参拝。各寺で法楽を営み(写真)、それぞれ由緒、沿革等の説明を住職から受けた。

デスクから

新しい広報紙を始めて、九月が過ぎました。読者の皆さまのご期待に添えたかどうか。ともかく出し続けることが出来て、ホッとしています。来る年も、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。●お陰様で、年末恒例のカレンダーは三万部を完売しました。また、今年、初めて手がけたジャーナルの新年

特別授戒会執行状況 (11月20日現在)

◆東海教区第6部 圓観寺・10月31日 恵日院探題大僧正	戒弟209名
◆三岐教区 朝田寺・11月3日 曼殊院探題大僧正	戒弟226名
◆九州西教区 観世音寺・11月6日~8日 毘沙門堂探題大僧正 三千院探題大僧正	戒弟880名 戒弟314名
◆九州東教区 臨濟寺・両子寺11月16日~17日 曼殊院探題大僧正	戒弟906名
◆岡山教区第5部 宝珠殿・11月16日 毘沙門堂探題大僧正	戒弟205名
◆東京教区 天王寺・11月20日 毘沙門堂探題大僧正	戒弟114名

【栃木今井昌英通信員】号も、二万四千部のお申し込みを頂き、完売の上、増刷にかけております。心より御礼申し上げます。また、来年もよろしくお願ひ申し上げます。●「仏と生きる」は、終わつたわけではありません。企画記事が次々とあるものですから。また近いうちに再開します、と言いつつも「何か、新しい企画はないか？」と考えている年の暮れです。ニュース、お便り、感想を待っています。未完成、荒削り、ちよつと耳打ち原稿でも歓迎。

一人ひとりの心に仏性がある

壬生総本部長が講演

三岐大会

三岐地方本部(宇野光道本部長)では、十一月二十一日、美江寺(岐阜市・加藤弘和住職)を会場に一隅を照らす運動三岐大会を開催。約百三十



名の参加者が集った。大会は教区内寺院住職出任による厳かな法楽、檀信徒による詠賛歌の奉納の後、壬生照道一隅を照らす運動総本部長が、昨年度の一隅を照らす総本作製ポスターの標語である「きようはなができるかな」と題した講演を行った(写真)。

天台宗インド禅定林大本堂地鎮祭参拝団募集

期 間 第1団: 2005年2月5日(土)~10日(木)の6日間
第2団: 2005年2月5日(土)~13日(日)の9日間
9日間コースはサルナート(初転法輪)・ブダガヤ(成道)・靈鷲山(法華經説法) ナーランダ大学等佛遺跡巡拝を含む

発 着 両団とも関西空港及び成田空港

旅行代金 第1団: 235,000円 第2団: 320,000円

募集人数 第1団: 30名 第2団: 15名

締 切 2004(平成16)年12月25日

企画主催 パンニヤ・メッタ協会日本委員会 **共 催** 天台宗

協 賛 比叡山延暦寺・一隅を照らす運動総本部

お問合せ パンニヤ・メッタ協会 一隅を照らす運動総本部
日本委員会事務局 〒520-0113 滋賀県大津市坂本
〒520-0801 滋賀県大津市におの浜 4-6-2 天台宗務庁内
電話 077-579-0022 電話 077-579-2516
Eメール sangha@pmj3.com Eメール ichigu@tendai.or.jp

お申込先 (株) トラベルサライ『インド禅定林大本堂地鎮祭と佛跡巡礼の旅』係
旅行主催 〒541-0047 大阪市中央区淡路町1-2-10 RRビル
フリーダイヤル 0120-408-128 FAX 06-6232-3013
電話 06-6232-3012 担当: 小田・松本・中村

らすことなのです」と、開宗千二百年慶讃大法会期間における本運動推進の意義と大切さをユーモアたっぷりに話され聴衆をひきつけた。

一足早く一斉托鉢を実施

震災復興支援にと

茨城 城庫 兵

茨城第二部・第七部

十月三十日、茨城教区第二、七部の寺院住職と法嗣六名が、天台宗全国一斉托鉢を実施し、JR下館駅前や商店街で街頭募金や托鉢を行なった。

例年は、「地球救援募金月間」である十二月に実施しているが、本年は、先の新潟中越地震支援のために、日程を繰り上げて実施。当日は雨にもかかわらず、多くの浄財が寄せられた。

同日寄せられた浄財は、日

本大会に参加した方々から、二十七万三千七十七円の地球救援募金が集まり、閉会式の折に、全額を壬生総本部長に手渡した。

本赤十字社茨城支部に寄託された。

兵庫第五部

十月三十一日、兵庫教区第五部(吉川廣隆主事)は、美方郡温泉町の牛峰寺(誉田玄



隆住職) 昇降で、誉田住職はじめ檀徒ら十五名が、全国一斉托鉢を実施した。同部は、十一月下旬には降雪に見舞われることもあり、大師講に併せて托鉢を行っており、同寺昇降での実施は十八年ぶりだったが、檀家約六十軒を脚した。この日集められた浄財は、温泉町社会協議会と災害支援として地球救援募金事務局に寄託された。

左記の義援金受付は、十一月十五日まで。

復興義援金を送る = 1,122 万余円を =

り、千二百三十二万三千一百円が寄せられた。この義援金は、災害救助法が適用された、宮崎・広島・

天台宗災害対策本部(西郊良光本部長)では、今夏から続けている災害に対する現地調査や視察、支援活動を行なっている。先の豪雨・風水害被害については、復興義援金を募

また、宗内寺院に甚大なる被害をもたらした新潟県中越地震では、現地対策本部(小山健英本部長)と連携し支援活動に取り組んでいる。地震発生から一カ月が経ち、仮設住宅への入居も始まったが、避難所で生活する避難者はまだ多く、今月には積雪になる

の支援がまだまだ必要とされている。

実践3つの柱

「共生」…地球に優しい生活をしよう
「奉仕」…ありがとうの心で行動しよう
「生命」…あらゆる命に感謝しよう

新潟県中越地震支援のお願い

天台宗新潟県中越地震対策本部では、被災された方々に対し、復興を支援するために緊急募金活動を行うことになりました。皆様からご支援をお願いします。

郵便振替 口座番号 01050-1-69505
加入者名 一隅を照らす運動総本部 地球救援募金事務局
※通信欄に「新潟中越地震」と明記下さい。

バザーの収益金を寄託

比叡山幼稚園親師会

比叡山幼稚園(大津市坂本・武寛超園長)では、十一月七日、恒例のチャリティバザーを開催、園関係者・近隣住民たちで賑わった。当日、会場に新潟県中越地震復興支援の募金箱を設置し、親師会(水尾寂芳会長)役員や教諭らが浄財喜捨を呼びかけたところ、同園の教育理念の一つ「忘己利他」の実践として



て園児らが喜捨する光景が見られた。同月十六日、親師会役員と園児代表が天台宗務庁を訪れ、壬生照道総本部長に浄財六万四千六十七円を手渡した(写真)。

素晴らしき言葉たち

人間はみな、心の陰、人に見られたくない思いで生きています。そして、光の当たっているところだけを見せようとして、かえって疲れ果てているのです。もし、人間の陰、それも一人ひとりに背負い込んでしまった心の陰を、ありのままに聞いてもらえる人としたら、人はどんなに楽になることでしょうか。

『いのち分けあいしもの』

大須賀茂哉著 柏木社刊

私たちは、日常生活や仕事で「役」を演じることが多いものです。よほど天真爛漫な芸術家でもないかぎり、地の姿はみせません。例えば、鬼課長であったり、抜目ない商売人であったり、いつも周りを笑わせている部長であったりします。しかし、それは辛い仮面である場合が多いものです。長年、その仮面をつけて生きていくと、本当の皮膚が仮面に張り付いて、自分自身でも見分けがつかなくなってしまうことがあります。

しかし、役を演じるのに、みな疲れ果て、ありのままの自分を受け入れてくれない、ただ一緒に居てくれる人を求めています。できるなら求められる人になりたいと、そう思います。